

タイトル：研修旅行の充実度

私が新入生や下級生に紹介する「福井高専のウリ」は、研修旅行である。この研修旅行は、本学科の第三学年時に行う行事である。団体行動では、社会への理解を深めることを目的として企業訪問を行う。自由行動では、各自が旅行の計画を立てて有意義な時間を過ごす。私には兄がいるが、兄は私が中学生の時にこの研修旅行に行った。その話を聞いた時、私は自分の行きたいところへ行けるということに魅力を感じ、自分も行きたいと思うようになった。

このウリを「団体行動」と「自由行動」の二つに分けて説明する。まず、団体行動のウリは、自分の専門分野への理解が深まることだ。実物を自分の目で見ること、それまでの授業の中で学んだ内容への理解が一気に深まる。これは、自分の進路を決めるのに重要な経験となる。次に、自由行動のウリは、やはり自分たちで計画を立てられることだ。観光地や宿泊施設などすべてを自分たちで決められるということは他の学校ではまず絶対にできない。もちろん、自分たちの希望がすべて反映された計画であるため最高に決まっているし、それゆえ友達との親交もより深まる。

私がこの研修旅行の中で良かったと思ったことの一つとして、自分の希望していた企業に訪問できたことを挙げる。見学先の一つである「大和ハウス」では、窓の種類による採光の取り入れ具合の差を肌で感じることができる施設や、未来の建物にはどんな可能性があるのかを見学することができた。しかし、楽しいことばかりではなく、苦労したこともあった。それは、知らない専門用語がたくさん出てきたことだ。企業で行っている研究は、私たちが授業で学ぶ内容よりも具体的である。そのため、これまで聞いたことがないような内容が当たり前のように扱われていた。ひどい時には、説明についていけないということもあった。ただ、これは自分たちが知らないことがまだまだ沢山あるんだということを知る良い経験となった。そして、今の自分達には社会で活躍する力がまだまだ足りないという事実を痛感することもできた。これは、実際に体験することで初めて理解することができると思う。

私は、この研修旅行に行くことができて本当に良かった。それは、今まで述べてきたようにたくさんの経験をすることができたからではあるが、何よりクラスメイトと旅をすることができたということが一番大きかった。それまで、体育祭や高専祭など様々なイベントに参加してきたが、やはり研修旅行にはなにか特別な想いがあった。皆さんはこれから勉強の大変さにつらくなってしまうこともあるだろう。しかし、その苦難を乗り越えた先に必ず楽しいことが待っている。この研修旅行もその一つとして学習の糧にし、これからの学校生活を頑張ってもらいたいと思う。

タイトル：私の考える高専のウリ

この文章は、高専は就職がしやすい環境であるという点がウリであるということを示します。就職がしやすい環境が整っていると感じた点は、キャリア教育が充実しているという点です。キャリア教育とは、就職に関する知識や技能を身につけるための教育のことです。福井高専では本科 1 年生から校外研修などのキャリア教育が始まります。入学から、早い段階で自分の将来を意識することができます。私はオープンキャンパスに参加した際、就職がしやすいということを知りました。高専に入学後、このように整った環境に改めて感動しました。

上述したように、高専には就職のための環境が整っていると感じるでしょう。これは、体感だけではなく結果にも現れています。2020年度の就職内定率を高専卒業者と短期大学卒業者で比較してみます。就職内定率とは、就職希望者数に対する内定者数の割合のことです。高専卒は100%に対し、短期大学は89.3%となっています。これらの結果から、高専は就職しやすい環境であるということがわかります。またこのことから、高専では就職後に重宝される技術を身につけられるという証明になっています。

私が特にこのウリを実感したのは本科4年生の時です。4年生になると定期的にキャリア教育の時間があります。その時間に、自分の専門だけでなく、複数分野の先輩方の話を聞くことができるため、様々な企業に興味を持つきっかけになります。また、国語の時間でも履歴書やお礼状の書き方など就職に関する指導を受けることができます。反対に、興味を持った企業が増えると、1つの企業に絞るのが難しくなります。しかし、職業体験や企業説明会に参加することで、興味や関心をより深めることができます。私も2つの企業で悩んでいましたが、企業説明会や企業見学に参加し、希望する企業を絞り、内定を得ることができました。

このようにキャリア教育が充実しているため、就職を希望している人には、最適な学校です。また、キャリア教育を通して在学中に即戦力となる技術や礼儀を身につけることができます。オープンキャンパスなどを通じ高専のよさを実際に感じてみてください。

タイトル：福井高専の魅力

福井高専の魅力は体育祭の応援団です。各学科の応援団には特徴があり、例えば、確実に優勝を狙った真剣な応援をする組や面白さを追求した応援をする組があります。私が応援団に入団した2年生の頃から、体育祭の応援が福井高専での魅力だということに気がつきました。

福井高専には5つの学科があり、体育祭で各学科ごとの色組に分かれて戦います。各組は総合優勝の他に競技の部、デコレーションの部、応援の部での優勝も目指して戦っています。この体育祭で目玉と言っても過言ではないのが各組の応援です。環境都市工学科と機械工学科と物質工学科の黄赤白組は毎年応援の部で優勝や総合優勝を本気で目指している組です。この三色の応援は全員の息がそろった動きをしていて、見てみると感動するレベルのものです。また、電気電子工学科と電子情報工学科は年ごとに流行っていた動きや言葉、他組の応援のパロディを取り入れた応援をしていて、毎年見ても飽きないくらい本当に面白いです。

この応援をしていて良かったと思うことは、今まで関わったことがなかった先輩や後輩、他クラスの学生と仲良くなれるということです。高専生活において関わる機会がとても少なく、部活動以外ではめったにありません。また、同じ学年でも2年生からはクラス替えがないため他クラスの学生と新しく仲良くなることなどもないと思います。そこで応援団に入ることで先輩に教わったり、後輩に教えてもらったりしていく中で仲良くなれる機会が多くあります。応援練習の昼休み休憩では先輩後輩でご飯を食べに行くことが多いため、その際にたくさん話すこともでき、私は多くの人と仲良くなりました。逆に応援で苦労したこともありました。私が入っていた黄組は2.3年生の頃1度も応援の部で優勝したことはありませんでした。先輩達から多く指導してもらい一生懸命練習していましたが、結果につながりませんでした。最高学年の先輩はとても悔しかったと思いますが、その気持ちが私にも伝わりました。しかし、私が最高学年の4年生の際、私が指導する立場となり、その悔しい思いを持ちながら練習し、後輩にも指導をしました。夏休みには毎日練習を行い、クラスメイトと応援団を高め合った結果、応援の部だけでなく全ての部門で優勝し総合優勝もできました。

福井高専の体育祭応援団は、高専生活の1番の思い出に残ることは間違いありません。そこでさらに、多くの先輩や後輩と仲良くなることができる最高のイベントです。高専に入学したら、ぜひ、応援団に入ることをお勧めします。

タイトル：高専の受験を考えている中学生に向けて、高専のウリを紹介する。

高専のウリ、それは学業だけに留まらず、高専祭などの学校行事に至るまで多岐に亘ります。そこで、高専の受験を控えている中学生の皆さんが一番気になっているであろう、学業に対する高専のウリについて三つ紹介していきたいと思います。

学業に対する高専のウリ、それは「専門知識の早期習得」、「進路をイメージしやすい」及び「在学期間の長さ」の三つです。中学生の皆さんも担任の先生方から、高専は五年制で専門的なことを学ぶ学校だということは聞いていると思います。しかし、先生方も高専の卒業生ではないため、高専の内情について詳しくは分かりません。私も皆さんと同じように中学時代、先生方から高専について話を聞きましたが、分かったことといえば誰もが耳にしたことがあるような高専の評判が主でした。一番知りたかった、高専では専門的なことをどう学ぶのか、卒業後の進路をどう決めるのかということは最後まで分からずじまいでした。そのため、次の段落では皆さんが知りたいであろう高専のウリが、実際どのようなものなのかについて話していきたいと思います。

高専では他の高校と比べ、一年次から専門知識を学ぶと共に、実験などの実践を行うことができます。そのため、専門知識を暗記しておくだけでなく、実践で使うことで効率よく学ぶと共に、実践を行うにあたり注意すべきことを体感することができます。加えて、在学期間が長いいため、専門分野を学ぶ時間が長く、授業や実験を通して自分の専門分野の先生方と話す機会が自然と増えます。そのなかで、先生方から具体的なアドバイスをいただきながら、進路について進学するか就職するかのイメージを強く描いてから決めることができます。さらに、在学期間の長さから、病気などの予期せぬ事態が起きた場合も、企業経験のある先生方と時間をかけて話し合い、進路を決めることができ、病気が長引いた場合も休学することで長期の療養をすることができます。

ここまで高専のウリについて話してきましたが、皆さんどうでしたか。おそらく、どれも抽象的な内容でなかなか良いイメージが湧かなかったことと思います。そこで、次は私の実体験を踏まえ、上記で説明した内容を具体的に利点と欠点に分け、紹介していきたいと思います。加えて、受験生の皆さんが気になったであろう「専門分野が自分に合っていなかった場合」についても触れていこうと思います。

高専のウリといっても、人によって利点、欠点の捉え方は様々あります。私は高専入学当時、卒業後は進学することを考えていました。しかし、二年次から目の病気になったことで一生付き合うこととなる傷ができ、そのことを踏まえたうえで進路を進学から就職に変更しました。この際、進路を変更することは簡単なことではありませんでした。しかし、専門知識を早くに学び、二年次から本格的に授業や実験などで先生方と関わり、話す機会が増えたことで、進路についてアドバイスを頂け、自分なりに就職について具体的にイメージすることができました。そのことに加え、在学期間が長かったため、進路について病氣と闘いながらじっくりと決めることができました。このことを踏まえ、私は初めに述べた三つのウリが利点であると考えようになりました。しかし、利点があれば欠点も必ず存在します。このような利点があったとしても専門分野が肌に合わないと分かり、高専を退学する人もいます。私の友人も、このことが原因で複数人退学しました。高専では、学力入試で受かった者だけ、一年次に基礎的な専門知識に触

れ、自分に合っていないと感じた場合は専門分野を変更することができます。しかし、変更できるとはいえ、基礎しか学べていない一年次に変更するのは勇気のいる決断であり、他の高校のように三年間の学業経験を積まずにやりたいことを決めるのは酷なことです。これらのことから私は、高専のウリには専門分野を学ぶ時期で利点と欠点が生じるのではないかと考えました。そのことを考えたうえで私は、欠点を鑑みてもエンジニアを育成するうえで高専は他の高校に比べ、卓越していると思いました。

私は他の方々よりも特殊なケースの高専生活を送ったことで、高専のウリを人よりも強く感じることができました。また、一生付き合うこととなる傷ができた私ですが、高専でエンジニアとして必要な技術を身につけられたことで無事、就職活動を終えることができました。自身の将来を決めることは簡単なことではないと思いますが、もしあなたが将来的にエンジニアとして働きたい、手に職をつけたいと思うならば高専に進学することも私は良いと思います。もし、高専に入学し、専門分野が肌に合わず、入学したことを後悔することがあったとしても、その結果はあなたが自分のために一歩踏み出した結果です。その結果を後悔として終わらせず、踏み台にして前に進めばいつかきっとあなたに合った道が見えてくると私は思います。

タイトル：『電子情報のこれからと高専について』

電子情報工学科は、福井高専の5学科のうちの1つです。そこではIT技術者として働くための基礎を5年間で身に着けることができます。高専の魅力は、若いうちに高い技術力を身に着けられることです。私は、4年生のインターンシップで、他校の大学生と交流した際、高専で習う専門知識は大学生に劣らない、またそれ以上のものであると感じました。

普通科の高校に進学した場合、IT分野を学ぼうとすると、高校での3年間に加え、大学で4年間学ぶ必要があります。しかし、高専では1年生のうちから専門教科を学習するため、5年間で大学～大学院相当のIT分野に関する知識を学ぶことができます。また、高専では5年間で40個ほどの実験を行います。この実験では社会に出てからも使用する機器を用いて実験を行うため、将来的に必要なスキルを身に着けることができます。

インターンシップへ行った際、業務の中で、組んだプログラムをロボットに組み込んだ時に、動作チェックにオシロスコープという出力波形を調べる機器を使用しました。この時は、指定した大きさの電圧が、理想通りに出力されているかを波形で確認しました。オシロスコープは高専の実験でも使用した経験があったため、実際の業務でも慌てることなくスムーズに使用することができました。担当社員の方からも、「技術力があり、学校でも真面目に学習に取り組んでいることが伝わってきた」と評価を頂きました。また、一緒にインターンシップに参加した他の大学生とも話が合うことが多く、年齢に差はあれど、高専では大学相当の内容を学べていると実感しました。もちろん、短期間で濃密な内容を勉強するため、興味がなければ学習が辛いと感じることもあります。また、電子情報は特に今を生きる分野であるため、自分から率先して最新の知識を身に着けなければ授業についていけないこともあります。しかし、若いうちに高い技術力を身に着けることにはこれらの苦労を上回る、大きな価値があります。就職活動においても、大学生に比べ高専生は優遇されることも多いです。将来、レベルの高い会社に就職したいと考えたとき、自分の技術力に自信をもって就職活動を行うことができます。

今、IT技術者の需要はどんどん高まっています。プログラミングが義務教育にも組み込まれ、IT分野に興味を持つ中学生も増えていると思います。私は、高専は実践的に技術を学べるのが大きなウリだと感じています。若いうちに高い技術力を身に着け、「将来、IT社会の前線に立ちたい」、と考えている学生はぜひ高専への入学をお勧めします。